

＊ 幕末維新村絵図（国立天文台がある大沢の古い地図）について

アーカイブ室新聞第360号（2010年7月9日）に「武蔵野の天文台」という記事を書いた。この「武蔵野の天文台」という記事を提供してくれた三鷹市大沢の歴史を調べている三鷹市在住の「大沢の歴史の研究者」榛沢茂量氏にその出所について尋ねていた。その榛沢氏が国立天文台に筆者を訪ねてくださった。その時、ご自身の研究成果である幕末維新村絵図（幕末維新の頃の大沢村の古い民家の配置図）、昭和10年（1935年）前後の東京府北多摩郡三鷹村全図の復元図の2枚の大きな地図と「郷土史 大沢」の1～4号を各2部お持ちになり、提供してくださった。1部は国立天文台図書室に、1部はアーカイブ室に頂き有効利用させていただくことにした。この絵図は天文台が移転以前の様子を知る初めてのものである。

図1が幕末維新村絵図の現在の国立天文台敷地付近の絵図の抜粋である。

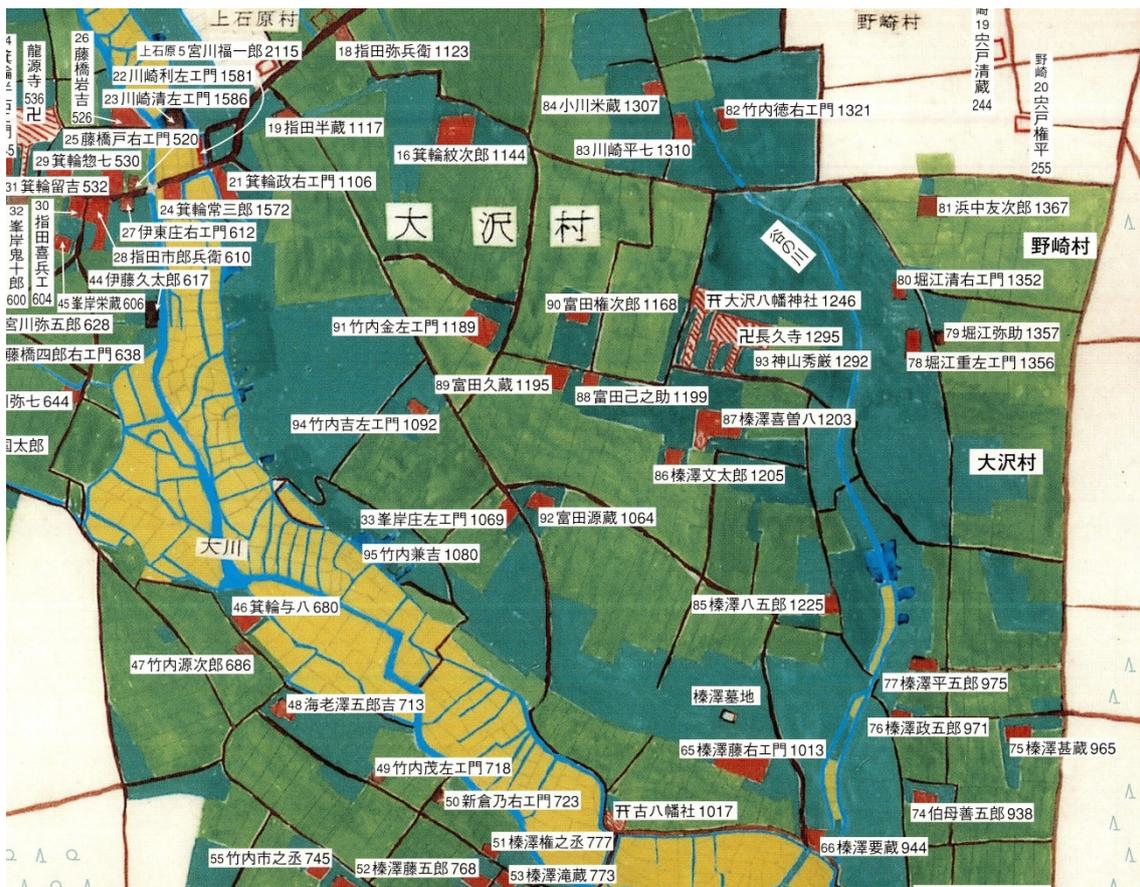


図1 幕末維新村絵図の現在の国立天文台敷地付近

この絵図一帯に住まわれていた住民の名前が調べられており、天文台構内にあったと言

われている長久寺、大沢八幡神社等も記入されている。この絵図の何本かの道路は現在の天文台構内に現存する道路と思われる。近藤勇ゆかりの龍源寺、古八幡神社は現在の場所
に書かれている。写真1が1960年頃撮影されたほぼ同じ領域の航空写真である。絵図には
現在の天文台通りはなく、比較的幅広の沢が描かれている。



写真1 昭和35年(1960年)頃の航空写真

東京天文台(国立天文台の前身)は明治政府の海軍観象台の跡地の麻布区飯倉の地にあったが、敷地が狭隘であったことと、都市化で空が明るくなったことから空が暗く広い土地を求めて明治42年に現在の三鷹の土地を購入した。

榛沢氏の話では、現在の天文台通りは住民たちが、天文台が出来るというので自分たちの土地を供出して敷設したという。筆者が昭和38年(1963年)に初めて三鷹キャンパスに来た頃は、天文台通りの東側は深い沢で道路は砂利道であった。